

2016年10月2日

寿会千葉支部

幹事 川上 昇

同 宮地 秀幸

## 日帰りバスツアー「巾着田五百万本の彼岸花、小江戸川越散策」

10月1日早朝、雨音で目が覚めました。今日は年一度の大事な秋催事の日。秋空がどこまでも澄み渡った爽やかな筈が生憎の雨模様のスタートとなりました。

今回は旅行会社のバスツアーを利用し、人気スポットの川越の歴史散策と彼岸花(曼珠沙華)で有名な巾着田を巡りましたが、月初めの休日と重なった事で、参加者は例年よりも少なめな13名となりました。

集合場所の京成津田沼、西船橋、新浦安とバスは巡り、参加者全員が遅れることなくツアーバスに無事乗車できました。このコースは人気が高く、バスは2台仕立てで出発、圧倒的な数の中高年女性客のなか、13名は後部座席を陣取りま

9時にはすでに雨は止み、曇天がかえって程よい気温と湿度のやさしい気候になりました。

車中で用意したお茶とお菓子を配ると、一挙に行楽気分となり会話も弾んできました。

バスは渋滞もなく進み、蔵造りのまち「川越」に到着しました。

川越では2時間のフリータイムで、川越城本丸御殿、市立博物館、喜多院などを回りました。

川越は舟運や川越街道の陸運で江戸と繋がった城下町で、江戸文化の歴史的遺産が多く遺されています。川越の歴史は、2時間ではとうてい足りない充実した内容でした。

バスが次の目的地「巾着田」に向かうと、旅行会社の栗おこわ弁当で車中での昼食になりました。

すかさず、用意したビールを配ると、食べながら飲みながら、隣席同志話の花が咲きました。やがて、五百万本の彼岸花地、日高市「巾着田曼珠沙華公園」に着きました。

巾着田の地名は、高麗川の蛇行した形が巾着型であることが由来とされています。河川の増水の際、漂流物に彼岸花(沙華)の球根があり、根付いて繁殖したものと言われています。

彼岸花は別名「死人花」「幽霊花」「捨子花」とも言われ、鱗茎は有毒です。ストローのような花茎を垂直に伸ばし、赤い小さな花を何本も輪状に開き、独特な雰囲気漂わせます。

最盛期は過ぎ、赤い絨毯とはいきませんでしたが、開花時期をずらした一角を鑑賞することができました。地産品の臨時ツツが営業されており、1時間30分のフリータイムをゆったりと過ごしました。

旅の行程は順調にすすんで、15時40分には巾着田を出発し帰路に向かいました。その後もさしたる渋滞もなくバスは予定時刻を1時間以上も短縮し、それぞれの下車箇所に着きました。

心配した雨に傘を差すこともなく、日差しに晒されることもなく無事それぞれ、お土産を携えて帰還しました。

ご参加いただいた13名の方々は、高齢のなかでも年齢差や体力差があります。行動を共にするなかで、自然に歩調をり、声を掛け合うなど、寿会会員の方々の気配りや行動が、垣間見られました。和やかで爽やかな秋催事でした。



「巾着田曼珠沙華公園」にて

後列左: 牧田賢二・宮地秀幸・川上 昇・白岩仙一・野田 佑・榛原  
木頃勝紀・平木行雄

前列左: 櫻井 實・平木七重・柴田矩雄・六角 学・湯浅尋夫  
参加者13名(敬称略)



「蔵のまち 川越」にて

後列左: 牧田賢二・榛原靖佳・六角 学・宮地秀幸・木頃勝紀・湯浅尋夫  
野田 佑・平木行雄

前列左: 川上 昇・櫻井 實・平木七重・白岩仙一・柴田矩雄  
参加者13名(敬称略)

(レポート 川上) 以上